

「UMEZUMI」紙を超えた紙を目指して



山陽製紙株式会社

「梅炭クレープ紙」

クレープ紙の専門メーカーとして、製袋、包装、電子部品、花ラッピング業界向けに製品を供給してきた山陽製紙。同社は今、蓄積した技術をもとに、新しい領域の開拓に挑戦している。

「当社は従来から紙のリサイクルに取り組んできました。その姿勢を維持して、環境に配慮した循環型社会に貢献することを目指しています」と語るのは原田六次郎社長。

この言葉は、平成19年に会社設立50周年を迎えたのを機に刷新された経営理念にも盛り込まれている。「循環型社会」という枠組みの中で、紙の有効性を追求する……。その代表的なのが、「梅炭クレープ紙」と呼ばれる独自製品である。これは産業廃棄物として捨てられ



ていた梅の種を炭化させ、紙に抄き込んだもの。この抄き込み作業、もちろん同社の高い技術力があってこそ可能であり、原田社長自身も自負している同社の強み。この紙には、消臭、調湿、鮮度保持に加え、ホルムアルデヒドのような化学物質を吸着する効果も期待され、従来の紙の概念を覆した。

特に消臭効果に優れ、例えば靴の中に入れておくと、臭いのもとである「イソ吉草酸」という成分を99%吸着する。好きなサイズにカットして使えるため、下駄箱、タンス、冷蔵庫等、使用先を選ばない。古紙炭、水で創られるこの究極のリサイクル紙は、循環型社会の成熟度を測る一つのものさしとなる。

「お酒の箱」で「酒造会社」と「ラボサミット」でも採用

「当社が提供すべき技術は、紙の3R（リデュース・リユース・リサイクル）。他企業とも積極的に連携していく」と原田社長も語る通り、梅炭クレープ紙の能力を最大限に引き出すのは、異業種の企業とのコラボレーションである。

例えば同社は地元大阪の酒造会社と協力し、酒を入れる箱を開発した。この箱の素材はもちろん梅炭クレープ紙で、普通なら捨てられるものが、ちぎって靴の中に入れておくと消臭効果を発揮する等、一味違った箱に変身する。酒とこの箱のセットは、平成20年に大阪で開催されたサミット財務大臣会議で採用さ

れたほどだ。

さらに同年の北海道洞爺湖サミットでは、梅炭クレープ紙を内側に縫い込んだ巾着袋が酒とともに配られ、単なる袋としてではなく、靴や下着類を入れて使ってもらうこと、つまり梅炭クレープ紙の効果をアピールした。

「今後も他企業とのコラボレーションを進めていき、環境に配慮した新商品を生み出していきたい」。環境対応が必須となった21世紀、UMEZUMIのさらなる普及を目指す。

主な事業内容

製袋用クレープ紙の製造、製袋関連資材の販売、包装用クレープ紙の製造、鉄鋼・電線用包装関連資材の製造、ギフト・花ラッピング用クレープ紙の製造等



原田六次郎さん
代表取締役

Company Profile

山陽製紙株式会社

住所 / 〒590-0526
大阪府泉南市男里6-4-25
創業 / 昭和3年3月
設立 / 昭和32年12月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 51名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-482-7201
FAX / 072-482-7204

大阪18

ISO 9001

<http://www.sanyo-paper.co.jp/>